

気仙沼管内の宮城県公所が取り組んだ事業を定期的に紹介します。

気仙沼大島大橋が開通します（気仙沼土木事務所）

宮城県が「復興のシンボル」として整備を進めてまいりました「気仙沼大島大橋」については、平成 31 年 4 月 7 日（日）に供用を開始することといたしました。

大島架橋事業については、大島地区の住民が東日本大震災時に長期間にわたり孤立を余儀なくされるなど、その必要性が再認識されたことから、平成 23 年度に着手しました。

計画ルートは、震災を踏まえて、津波の浸水高を考慮した高さとし、三陸自動車道へのアクセスや防災集団移転計画など気仙沼市のまちづくり計画とも調整を図りながら、整備を進めてまいりました。今回の開通により、大島地区住民の日常生活における利便性の向上や救急医療活動への支援、観光交流や産業の活性化などが期待されます。



気仙沼大島大橋（全景）



気仙沼大島大橋（大島側から望む）

頑張る企業を高校生が体感！（気仙沼地方振興事務所地方振興部）

3月4日に、本吉響高校1年生を対象とした企業見学会を開催しました。

3グループに分かれ、サービス業や建設業、食品製造業など、気仙沼・南三陸地域で頑張る地元企業を中心に見学しました。

復興事業の先を見据え、インドネシアとの文化交流からビジネスへと発展させようとしている建設事業者では、同年代にあたる大学生のインターンシップ生からの説明を受け、刺激を受けた様子でした。また、本業での技術を活かし、観光型の体験プログラム「ちょいのぞき気仙沼」にも展開して地域を盛り上げる漁具メーカーや製氷事業者に触れ、企業が地域に果たす役割についても学ぶ機会となりました。



工場見学する生徒達



説明を聞く生徒達

「気仙沼・本吉地域 6次産業化推進研修会」を開催しました。

(気仙沼地方振興事務所農業振興部)

2月1日、気仙沼市本吉公民館を会場として、「気仙沼・本吉地域 6次産業化推進研修会」を開催し、農産加工に取り組む農業者など27名が参加しました。講師には、株式会社はなやか代表取締役の伊藤恵子氏を迎えました。(株)はなやかは、稲作を主とした生産部門に加え、宮城県遠田郡美里町で農家レストラン「はなやか亭」と「野の風」を運営し、農産加工にも取り組んでいます。講演では、起業の経緯や、地域の食材を使用した商品の提供などについてお話いただきました。

講演後の交流会は、伊藤氏と管内の生産者に持参していただいた「がんづき」や「りんごチップス」などの加工商品を試食しながら行われ、出席者からも商品開発の工夫など、積極的な情報交換が行われました。6次産業化への高い意欲が感じられる研修会となりました。



講演を行う伊藤氏



交流会

中山間の活動組織に対する研修会を開催しました。

(気仙沼地方振興事務所農業農村整備部)

平成31年2月6日(水)に、「平成30年度宮城県中山間地域等直接支払協定活動支援研修会」を気仙沼合同庁舎で開催しました。同研修会は中山間地域等直接支払交付金事業に取り組んでいる組織の第5期への継続促進、および気仙沼管内の課題となっている鳥獣害や事務負担への対策提示を目的とし、気仙沼市、登米市そして南三陸町から約70名の方が参加しました。

研修会では、「鳥獣害対策について」として七ヶ宿町湯原集落協定代表の山田様から、交付金を利用して電気柵などを設置し、人手を援農ボランティアで募るといった地元主体の活動を行っている事例発表。「事務サポートについて」として河南矢本土地改良区工務課の菅原様から、多面的機能支払交付金事業で取り組んでいる広域化組織との事務委託契約について、講演をいただきました。また、県庁農村振興課から交付金の適切な執行等に係る事業説明を行いました。質疑応答では多くの質問があり、組織の方々が事業へ真剣に取り組んでいる様子が見られた研修会となりました。



事例発表の様子



会場には約70名の参加者



講演の様子

「バードウォッチング」って楽しい！！

～愛鳥モデル推進校事業～（気仙沼地方振興事務所林業振興部）

愛鳥モデル推進校に指定されている新城小学校が、本年度第3回となる体験学習を行いました。

1回目は2年生を対象とした「愛鳥教室」、2回目は6年生を対象とした「愛鳥教室・クラフト作成」でした。

今回は、4年生を対象に「バードウォッチング」を実施。講師をお願いした南三陸ネイチャー友の会の鈴木会長から、野鳥の基礎知識やバードウォッチングのやり方などについて話を聞いた後、はやる気持ちを抑えながら、元気よく外へ飛び出しました。すると、校舎からでたところですぐに小鳥と思われる鳴き声が・・・

すかさず、鈴木会長からの問題。「さて、今の鳴き声は何の鳥かな？」に対して、色々な小鳥の名前が出たのを聞いた鈴木会長は、みんなが小鳥の種類を知っていることに驚いていました。

ウォッチングでは、十数種類の鳥の鳴き声や姿が確認され、「身近に色々な鳥がいることを知った」、「今度は自分でやってみたい」、などの意見が聞かれ、野鳥への興味・関心の高まりが感じられました。



野鳥を見つけて大興奮



熱心に双眼鏡で観察

漁業士について（気仙沼地方振興事務所水産漁港部）

県では、浜のリーダーとして、漁業に関する研究や技術と知識の向上に取り組む若手漁業者を「青年漁業士」、優れた技術や経営の実践・普及、担い手育成などを行う指導的漁業者を「指導漁業士」として認定しています。管内には現在、青年漁業士 16 名、指導漁業士 26 名、計 42 名の漁業士がおり、「宮城県漁業士会北部支部」を組織し、漁村の活性化や後継者育成のために活動しています。

震災で一旦休止した活動も徐々に幅が広がり、近年は年 2 回の研修会により研鑽を図っているほか、漁業就業を目指す方向けの研修「みやぎ漁師カレッジ」への講師派遣、漁業士会ロゴマークによる会員の水産物の PR などを行っています。先日も、海水温の上昇でサワラやサバ、ブリなどの水揚げが増える一方、ワカメの芽落ちやホタテの死滅などが問題となっているため、専門家を招き、これらの傾向と対策について勉強会を行いました。活動の様子は、Facebook にアップしていますので、是非「いいね！」をお願いします！ URL: <https://www.facebook.com/miyagi.gyogyoshi>



カキ養殖を指導する青年漁業士
（みやぎ漁師カレッジ）



漁海況に関する勉強会の様子



漁業士会ロゴマーク